

境界に生きるロヒンギヤ 差別されるいのち

日本の経済進出が目覚ましいミャンマーの西端で暮らしている少数民族、ロヒンギヤへの迫害が激化しています。この問題は、イスラム教徒のロヒンギヤと、ミャンマー国民の多数を占める仏教徒との「宗教対立」と一般的には表現されています。しかし、日本のお金が投入されたミャンマーの開発で生じた利権によって邪魔ものにされたロヒンギヤを国外退去させるために、仏教徒の民衆を利用している側面があります。さらに、隣国バングラデシュに逃れたロヒンギヤ難民は、バングラデシュにはミャンマーから押し付けられたと捉えられており、両国の共犯構造のなかで生活の場がありません。この問題構造には日本も関係があります。日本で暮らす私たちと、いずれの国からも排除されているロヒンギヤ。両者の命の尊厳に差が出ています。私たちはなぜ「仲間意識」や「敵対意識」に囚われてしまうのでしょうか。自らが抱える問題や日本との関連に気づき、あらゆるいのちが尊ばれる取り組みに想いを馳せられればと考えています。ロヒンギヤが困難に直面している現場で活動しておられるゲストからの報告や問題提起をいただき対話する場に、ぜひご参加ください。

■ゲスト： 根本 悦子さん



1947 年生まれ。社団法人科学技術と経済の会に入職し、月刊誌『技術と経済』の企画・編集に従事。1993 年に国際協力団体インドシナ市民活動センターを設立。1995 年に UNHCR の事業実施団体としてミャンマーで活動を開始。団体名称をブリッジ エーシア ジャパンと改称し、代表。この間、シーズの運営委員として NGO 団体の法人格取得活動に参加。共著に『いっしょにやろうよ最新国際ボランティア NGO ガイド』(三省堂 2010 年)、『ミャンマー・ルネッサンス—経済開放・民主化の光と影』(コモンズ 2013 年)。

■下澤 嶽さん



1988 年には(特活)シャプラニール=市民による海外協力の会の駐在としてバングラデシュへ。帰国後、1998 年に同会事務局局長。2002 年 7 月に退職し、同時にジュマ・ネットを友人たちと設立。2006 年 7 月から 2010 年 3 月まで(特活)国際協力 NGO センター事務局局長。2010 年 4 月より、静岡文化芸術大学教員。著書に「バングラデシュ、チッタゴン丘陵で何が起きているか」(2012 ジュマ・ネット)等。

■日時：2018 年 7 月 21 日(土) 13:30~16:00 (開場 13:00)

■会場：文京シビックセンター 5 階 会議室 C

東京都文京区春日 1-16-21 (丸ノ内線・後楽園駅 1 分、三田線/大江戸線・春日駅 1 分)

■参加費：一般 1,000 円/学生 500 円 当日受付にてお支払ください。

■主催：ソーシャル・ジャスティス基金 (SJF)

東京都新宿区歌舞伎町 2-19-13 ASK ビル 501 認定 NPO 法人まちぽっと

Tel 03-5941-7948、Fax 03-3200-9250、ホームページ <http://socialjustice.jp/>

■お申込みページ：<https://socialjustice.jp/20180721.html> 事前にご登録ください。

